

資料 1

令和 5 年 12 月 18 日（月）笠原中学校
第 18 回笠原幼保小中一貫教育研究会 資料

北方町立南学園視察報告書

期 日	令和 5 年10月16日（月） 13時30分～15時45分		
視 察 地	北方町立南学園（岐阜県本巣郡北方町高屋分木 2 丁目 23 番地）		
視 察 目 的	笠原小中学校の開設に向け、ソフト・ハードの両面で参考とするため。		
視察参加者	笠原幼保小中一貫教育研究会 会長 水野 豊 同 委員 稲葉 典子 同 委員 内記 伸也 同 委員 加藤 裕美 同 委員 東山 学史 同 委員 （教育次長兼教育推進課長） 同 委員 加知 昌彦 同 委員 （笠原小学校長） 同 委員 加藤 智夫 同 委員 （笠原中学校長） 教育委員会事務局教育研究所 教育長 仙石 浩之 教育委員会事務局教育相談室 副教育長 熊崎 健一 教育委員会事務局教育推進課 所長 久野 智治 同 課長代理 古川 浩行 同 教育指導監 丸山 近 同 主幹 丹羽 紀一 同 課長代理 南谷 美和 同 主査 加納 裕輔 同 主事 福岡 篤宣		
対 応 者	北方町教育委員会学校 教育長 名取 康夫 氏 北方町教育委員会教育課 課長 郷 展子 氏 北方町立南学園 校長 山路 康代 氏 同 副校長 広瀬 政至 氏 同 教頭 福永 秀雅 氏		
事前質問に 対する回答	1 義務教育学校での主なメリットとデメリット（ソフト面とハード面それぞれ） （1）ソフト面 メリット ・ 7、8、9年生が小さい子と接し、落ち着いた ・ 5、6年生の教科担任制が子どもたちに好評である ・ 中1ギャップがなくなった デメリット ・ 6年生の活躍の場が制限される ・ 中1での新しい出会いがない		

(2) ハード面

メリット

- ・修繕費（将来を含む）、維持費、人件費等、学校運営の効率化ができた
- ・小中の教員が連携、協力できる（職員室が1つ）

デメリット

- ・共有することで使用効率も上がり、ハード面でのデメリットは今のところ感じていない

2 義務教育学校に対する地元住民や保護者からの意見聴取の方法と主な内容

開校に向け各専門部会を設けて検討したり、町民対話集会や保護者説明会など数多くの説明の場を設けたりして、意見聴取を行った。説明会では先進校の成果事例を紹介したり、できる対策（中2、3が分かれる→町立進学塾）を提案したりした。また、毎月広報に掲載したり、各種会合で説明したり、役場に学園構想コーナーを設けたりするなどしてきた。

3 開校までの各種検討委員会やワーキンググループ設置の有無とスケジュール

（校名・校章・校歌・制服の決定過程と、決定後に発生したトラブルがあれば）

まず検討委員会を開き、構想の意義や方針を検討した。それを受けて町として基本方針を作成し、課題別（施設、学校運営、幼保連携、PTA・校名、部活動等）専門部会で案を作成した。その案を準備委員会で検討し方針を決めた。準備委員会の方針をもとに教育委員会で具体案を作成し、町長が最終決定。

校章：一般公募し、応募作の中から部会内で5つの候補案に絞り、児童生徒や保護者にアンケートを実施

校歌：現在の校歌を残してほしいという意見が多かったため、当面現在の校歌を愛唱歌として歌い、校風が定まってきた時期に地域や子供の思いも含めて制定

制服：部会で制服のあり方を協議し、制服を定め、7年生から着用する方針を決定。その後、児童生徒が意見交流する場を設け、専門部会において児童生徒や保護者の意見を参考に制服の候補を数点挙げ、アンケート調査を実施し決定。

4 開校までの小・中学校間でのすり合わせ状況（ソフト面とハード面それぞれ）

(1) ソフト面

- ・組織は1つという意識改革（学校は1つ、組織は1つ）
- ・準備の段階での役割分担
- ・学習のルール
- ・行事（修学旅行、卒業式、入学式等のあり方）
- ・校則（制服、靴、靴下等）
- ・学校の教育目標や指導方針（誰もが安心して学び合える、たくましい北方の子）
- ・職員の校務分担（教科担任制、学校の指導体制や管理体制、部活同顧問等）
- ・日課
- ・教育課程（北方科を含む）の共通理解

(2) ハード面

・特別教室、体育館、プール等の使用のルール

5 プール・体育館・特別教室等、使用が集中する施設運営の方法

基本的に時間割を調整して重複しないように配慮している。プールや体育館は1施設、運動場は2つあるため、第1運動場をメインに第2運動場はサブグラウンドとして運動会の練習など多くの学年が練習するときなどに活用している。理科室、音楽室は2部屋あり、前期課程と後期課程と分けて使用している。また、図書館、美術・図工室や技術室は1部屋だが、時間割を調整して使用できている。特別教室として多目的室、コミュニティルーム、深い学びの部屋は大人数が使用できる部屋になっている。学年活動や低学年の室内体育など多様な使用の仕方をしている。

6 学年段階の区切りの設定状況（開校後の変更の有無、成果と課題）

北方学園は学年段階の区切りを4-3-2で設定し、最初の4年間を基礎固め、次の3年間を思考力・表現固め、卒業までの2年間は進路に向けて個性を伸ばす機関と位置付けた。今年度開校のため区切りの変更の予定はなし。

成果：子どもの成長段階にあっている

課題：外部との関係が複雑になる

7 教員の配置や特色あるカリキュラム編成（学級担任と教科担任）

5年生から算数、理科、英語、体育については教科担任制を導入している。義務教育学校となったことで小中の区別なく教職員が一つの組織となったため、専科加配等の加配教員も含めた全教職員の中で分担している。

特色あるカリキュラム編成として0歳から15歳までの15年間カリキュラムを、カリキュラムリーダー（統合加配）を中心に教科部会で作成した。このカリキュラムを基に、教職員が1つとなり15年間を見通した教育を行っている。

8 入学式、卒業式、前期・後期課程修了式、運動会、文化祭、宿泊研修等の学校行事の状況

令和5年度	時期	備考
①入学式 (1年生・7年生)	入学式は前期・後期同日に行い、 7年生は午前中 1年生は午後に入式	1年生・7年生共に保護者参加 1年生のみ来賓を招いた
②始業式 (全学年)	①入学式と同日の午前中に行う	
③前期課程修了式 (6年生)	3/8(金)に行うことで検討中	保護者の参加は自由とし、儀式的行事として執り行わないが、一人一人に修了証書授与
④後期課程修了式 並びに卒業証書授与式 (9年生)	3/8(金)に行うことで検討中	

令和 6 年度からは、午前に始業式と 7 年生進級式（保護者を伴わない）、午後
に 1 年生の入学式を行っていく方向。

運動会については、9 学年で同日 1 つの運動場で実施する。保護者や地域の方
にもご観覧いただく予定。内容としては、1～9 年生の全校種目（演技）や縦割
り競技（団体）を企画。一方で多くの練習時間を要する「応援合戦」は競技か
らなくし、競技中の応援を充実させることとした。また、宿泊研修は児童生徒
が楽しみにしている行事なので、これまでと同様に実施。

文化祭については、11 月に縦割り（おひさまの会）行事と 12 月に全校音楽会
（仮名）を実施する。いずれも 1 年生から 9 年生が一体となって繋がる会を狙い
としている。

宿泊研修は、Ⅱ 部・Ⅲ 部を対象に、前期 5 月～9 月にかけて 5 年生「自然の家
研修」、6 年生「京都・奈良研修」、7 年生「岐阜県魅力体験研修」、8 年生「キャ
リア研修」、9 年生「平和旅行」を実施。Ⅰ 部は具体的な学びとして、後期に社
会見学を実施。

9 P T A ・学 園 生 会 の 構 成 や 運 営 方 法

PTA については、前期・後期課程で 1 つの組織としており、会費（長子のみ 年
額 4,200 円、月額 350 円 6 月一括払い）等を財源に自治的な運営を行っている。
執行部（会長・副会長③・書記②・会計① 任期 1 年 ※免除規定有）が中心
となり「企画実行委員会」「各種部会（家庭教育・郊外生活）」「学級委員会」
に分かれて活動している。

児童生徒会は、1～9 年生の児童生徒で執行部・議会・専門委員会・教科係会
の 4 つの部会により組織を構成して活動している。執行部（会長 1 名、副会長 3
名）及び専門委員長（学習・生活整美・文化・給食・図書・健康保険 各 1
名）は選挙により選出。議会や委員会はⅡ・Ⅲ 部が選挙権を持ち立候補者の立
会演説のもと、公平な選挙で会長、副会長、専門委員長を決定。

議会は 4 年生以上で構成し、4 年生がⅠ 部の代表として参加することで、Ⅰ
部の最高学年としての自覚を持てるようにするとともに、全校で考える意識や
「呼応」の意識を 1 年生から持てるようにしていく仕組みを取っている。

各学級では、学級委員、専門委員と教科係など一人一役制で学級の活動に取り
組んでいる。

10 クラブ活動や部活動の構成や運営方法

時間割上、水曜日を全校 5 時間授業とし、6 時間目を委員会やクラブ活動等の
時間に充てるなど、柔軟性を持たせている。クラブ活動は、水曜日の 6 時間目
に、4～6 年生が年間 8 回の計画で実施している。

部活動は、北学園・南学園共に同じ部活動を設定している。平日は週 3 日（火、
木、金）それぞれの学校で実施し、土・日のどちらかは北方学園クラブとして
両学園合同の部活動を実施している。構成は 5 年生以上（Ⅱ・Ⅲ 部）。ただし、
中体連参加は 7 年生以上。5、6 年生は体験として参加し、1 ヶ月を最低継続期間
としていろいろな部を体験できるようにしている。

運営方法については、クラブ・委員会・部活動指導ともに全職員で担当し、ローテーションを組みながら、負担軽減を図り、指導・支援している。

1 1 管理職の構成（提案・検討・決定の方法）や校内組織（企画・指導部会等）の状況

管理職は校長、副校長、教頭（3名）で構成。教頭3名はⅠ部、Ⅱ部、Ⅲ部教頭として各部主任と連携を密にし、報・連・相を徹底。また、「PTA、地域連携関係」、「教育相談・特別支援教育関係」「生徒指導関係」と役割を分担して全体を把握し、支援できる体制を組んでいる。

南学園は管理職5名と主幹、教務主任2名、生徒指導主事の合計9名を教務部「P（ポジティブ9）」として組み、学校運営の中核として毎朝のショートミーティングと毎週月曜日の2時間目にロングミーティングを設定し、情報共有と方向性の共通理解等を図って進めている。必要に応じて「P13」として、養護教諭2名、事務主任2名が加わることもあり。

その他の会議組織としては「企画委員会」「三指導委部会」「運営委員会」「職員会議」をもって運営の具体を企画・検討・決定。また定例会議として「部主任会（教務部+各部主任）」「主任会（教務部+学年主任）」「教育相談委員会」「校内支援教育委員会」、臨時会議として「ケース会議」を位置付けて風通しの良い運営組織体制づくりに努めている。

大きな組織を動かすため必要な会議を見直し、新たな体制を図った。会議の軽重を付け、精選し時間を生み出す努力をしている。また水曜日は「パラダイスデー」として会議を設定せず、自分のペースで早く帰れる日を設定。

1 2 他校との転入・転出で発生したトラブル

大きなトラブルはなし

1 3 日課、年間指導計画における配慮事項

日課については、1～4年生を45分授業、教科担任制を実施する5～9年生を50分授業で日課を構成している。教科担任が次の授業に間に合うように5・6年生は2時間目と3時間目の間の中休みを10分とし（1～4年生は20分間）、1・3・5時間目の開始時刻を揃えている。基本はノーチャイムで時計を見て行動するが、授業の開始時刻がそろっている時間ははじめだけチャイムを鳴らしている。また、「月・水・金曜日を掃除なし」日課とし、児童生徒の在校時間を短くし教師の教材研究時間や各種鍵の時間が取れるように工夫している。

年間指導計画については、昨年度北方町内の4校の管理職と主幹、教務主任、生徒指導主事と指導部長で旺盛する「スタート委員会」を立ち上げ、会議を重ねながら1年かけて制作してきた。校長会では「スタート委員会」に関わる会議事項を新たに位置づけ、進捗状況を把握し方向性を明らかにする話し合いを行った。事務局を担う教頭会は校長会から出た方向性を教務主任会、生徒指導主事会、各指導部会に割り振り、会議を位置付け連携しながら推進した。全体の「スタート委員会」は年3回実施し、各会で話し合ったことを提案してその場で決定していった。令和5年度の4月提案文書まで作成する目標で取り組み、完

成させた。

実際に実施してみると、小中ですり合わせていかなければならないことが多く出てくることを実感している。その都度、企画委員会や運営委員会で提案文書を見直し、言葉を置き換えて、1年生から9年生の発達段階に応じながら目指すところを共通理解して臨むことができるよう配慮している。

授業・校内
施設見学

1. 職員室



I部・II部・III部で島が分かれており、それぞれの部毎で話し合いを行うことができるようにされている。一つの職員室にそれぞれの部の教職員がいるため、他部との交流も盛んにおこなわれている

2. 昇降口



昇降口は1箇所。写真奥に見える扉の向前期課程・後期課程入り混じって使う様子も。

授業・校内
施設見学

3. 前期課程の授業の様子



多目的室での授業の様子

4. 後期課程の授業の様子

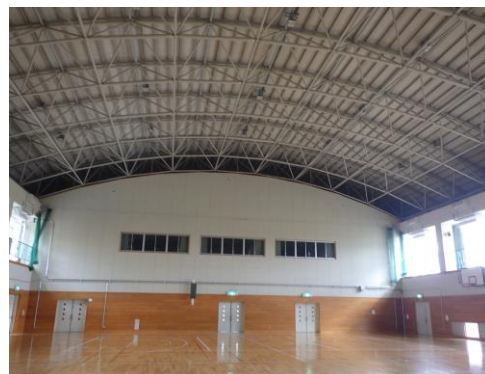


5. 図書室



前期課程・後期課程共有の図書室。本棚の配置により、ゆるやかにゾーン分けされている。

6. 体育館



バスケットコート2面を取っても周囲に余裕がある体育館。天井が高く、エアコンも完備。

7. 運動場



グラウンドで後期課程が授業を受ける中、中休みの前期課程の子どもたちが遊んでいる様子。

8. 保健室



前期課程・後期課程共有の保健室。写真右奥にもソファが置いてある空間があり、前期課程・後期課程両方の養護教諭の机も室内に向かい合わせに配置されている。

9. 深い学びの部屋



学級での話し合いの場としての使用や、委員会等異学年同士での交流ができるスペース。